

第 99 回理事会議事録

1. 日 時：2024 年 12 月 20 日（金）18 時 30 分～20 時 25 分
2. 議決方法：四谷 BC にて対面式で開催した
3. 議事参加者：【理事 11 名】 鳩山勝郎、浅越琴美、荒川聡一、垣内寅彦（ロート・ゲラー）、齋藤陽子、山後秀幸、波多江隆児、森村俊介、柳澤彰子、山田和彦、吉田正
【監事 1 名】 正村祐一
【事務局 2 名】 高野英樹事務局長、仲村篤志競技会事業部長
(理事現在数：13 名、定足数 7 名、本人出席 11 名)

4. 議事の経過及び結果

鳩山会長を議長に、議題を逐一審議した。

第 1 号議案 第 98 回理事会議事録の承認について
議事録案を承認した。

第 2 号議案 会員逝去の件
以下の会員 1 名の逝去が報告された。
伊藤直彦（21739）

第 3 号議案 会員退会の件
以下の会員 1 名の退会が報告された。
伊藤菊夫（10155）

第 4 号議案 2025 年度予算の件
2025 年度予算案について鳩山会長より以下の説明があった。
2025 年度予算は 12 月企画委員会で検討の結果、以下の案が出されている。
2025 年度は会員会友の減少傾向に歯止めをかけるべく普及活動の充実を図ることとし、普及事業の大幅な費用の増加を見込んだ。国際交流事業では、APBF 選手権で世界選手権の代表権を獲得するチームがいくつか出ることを想定したこと、およびユースが国別対抗の世界選手権の開催年度にあたり U21、U26 の両部門ともに世界選手権に進出することを期待し、ユースのガールズ部門への派遣も検討していることから費用が増加する見込みである。収入のほうは会友の年会費制度の見直しを行ったことにより増収を見込んでいる。トータルで今年度予算とほぼ同様の△360 万円の赤字の予算案となった。
検討の結果これを了承し、1 月理事会で引き続き審議をすることとした。

第 5 号議案 JCBL の経営に関する提案の件

山田理事による JCBL の経営に関する提案のうち、常勤職員の理事選任については 8 月および 10 月理事会では結論がでず継続審議となっていた。引き続き検討を行ったところ、常勤職員の理事選任に賛成とする意見と、特に必要はないとする反対意見とに分かれる状況に変化は見られなかった。賛否の決をとったところ、山田、齋藤、波多江の 3 名の理事が賛成、鳩山、吉田、ゲラー、浅越、山後の 5 名の理事が反対、残りの理事は白票となり、提案の採用は見送られた。

第 6 号議案 公認クラブ規則の件

鳩山会長より公認クラブ規則とブリッジセンターの現状について以下の説明があった。

公認クラブ規則第 24 条ではブリッジセンターの要件として、第 1 項第 2 号に会場の収容能力が 15 テーブル以上、第 1 項第 3 号にウィークリーゲームを週 4 日または週 8 回以上開催する承認を得ていること、とある。また、第 24 条第 2 項に、一定の地区を定めて第 1 項の第 2 号、第 4 号、第 6 号について別の要件を設定できるとある。それに対してブリッジセンターの現状は、首都圏以外のセンターの中には会場の収容能力の 15 テーブル以上の確保が難しくなってくるのが今後起こりうること、および全国の複数のセンターではウィークリーの週 4 日または週 8 回以上の開催は企画するも成立が難しい状況が続いている。規則の考え方を確認し、必要があれば規則の見直しを行いたい。検討の結果、公認クラブ規則の見直しは特に必要がないと判断された。会場の収容能力の 15 テーブル以上については、首都圏以外であれば第 24 条第 2 項を適用して別の要件の設定が行えることを確認した。ウィークリーゲームの週 4 日または週 8 回以上の開催の承認については、開催成立が難しいセンターも一部あることは承知しているが、引き続き目標としてもらうことを確認した。

第 7 号議案 各委員会および事業部報告

1. 企画委員会

吉田企画委員長より 11 月 13 日および 12 月 12 日に開催された企画委員会について以下の報告があった。

JCBL の HP に掲載されている JCBL BULLETIN は、著作権に配慮し現在は掲載冊数を直近の 3 号分としダウンロードは不可としている。2025 年度は会員制度の見直しに伴い、JCBL BULLETIN をネットで閲覧する人が増えることが考えられることから、掲載冊数を直近の 6 号分に増やし、ダウンロードを可能にする方向で提案したい。なお HANDBOOK については、直近の 1 号

が掲載されている現状を維持することとしたい。

検討の結果、これを承認した。著作者に必要な確認をとり進めることとした。吉田企画委員長より、10月理事会で継続審議となったJCBL事務局および会議室等の移転の件が提出され、引き続き議論を行った。検討の結果、会員会友数およびJCBLの収入の減少傾向が顕著であること、移転による経費削減の効果を普及事業に充てる必要があることを鑑み、移転の方向で進めていくことを決定した。事務局および会議室等の移転による特段の支障はないことを確認した。

吉田企画委員長より収支改善策の一環としてナショナルチーム戦の参加費の見直しについて以下の提案があった。

現在ナショナルチーム戦の入賞者に与えられるマスターポイントはチームに対して順位に応じた固定ポイントが与えられ、それをチームに属する人数で分け合う形になっており、チームの人数によって得られるポイントが異なる。そこで、ナショナルチーム戦の参加費をプレイヤー単位で設定し、獲得マスターポイントもプレイヤー単位の固定値とすることを提案したい。

検討の結果、提案の採用は見送られることとなった。

2. センター協議委員会

浅越センター協議委員長より11月26日に行われた首都圏センター会議について報告があった。

3. 代表選抜委員会

齋藤代表選抜委員より2025年APBF選手権のミックス代表のトライアルおよびオープン、ウィメンの代表選抜試合へのエントリー状況が報告され、了承された。

2025年APBF選手権

ミックス代表

島村京子、高山雅陽、阪口みどり、加来浩、柳澤彰子、陳大偉

オープントライアル招待

寺本直志、田中陵華、横井大樹、小池紀彰、古田一雄、大手瑠利

日野雄之、緒方敏広、宋逸寒、三浦優悟、趙金龍、島崎彩子

伊藤幸司、平田隆彦、田中治輝、上野山麻紀、長井曜子、伊藤美登里

4. 競技委員会

山後競技委員長より第290回競技委員会について報告があった。

5. 普及事業部

柳澤普及事業担当理事より12月18日に開催された普及委員会についての報告があった。

会員会友数を増やすための具体的な施策について意見交換を行った。オンラインの講習会を活用する案、カルチャーセンターとの連携を進める案、普及活

動への支援を公共施設の活用のノウハウも含めた総合的なものに強化する案が出された。次回の1月委員会でより具体的な案を持ち寄ることとした。柳澤普及事業担当理事より優待券進呈キャンペーンを2024年度から体験教室への紹介に拡大したことが好評だった旨報告された。

6. 競技会事業部

山田競技会事業担当理事より競技会事業部活動状況および資格取得者の報告があった。

7. 国際交流事業部

吉田国際交流事業担当理事より10月にブエノスアイレスで開催された第16回ワールドブリッジゲームズの日本代表チームの試合結果について報告があった。

吉田国際交流事業担当理事より10月にブエノスアイレスで開催されたWBFの会議について報告があった。

8. 法人・管理部

荒川法人・管理担当理事より11月末時点の比較財務諸表、月次収支実績、クラブ勘定残高について以下の報告があった。

11月末時点での収支累計は約1千9百万の黒字となっており、決算見込みは昨年度よりいくらか改善される見込みである。クラブ勘定の残高については問題がない。

第8号議案 その他の議案

1. 次回理事会開催について

次回理事会は2025年1月24日（金）18時30分より四谷ブリッジセンターおよびオンラインにより開催する

2024年12月20日

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

第99回理事会

代表理事 鳩山勝郎

吉田正

監事 正村 祐一

議事録作成者 荒川聡一